



第4回意見交換会

2022年11月23日(水・祝)に、パートナーズ・ボイス・プロジェクト第4回意見交換会をオンラインで実施しました。天気が良ければ町田、TAMAZOのフィールドから中継をつないで報告する予定でしたが、当日はあいにくの雨。中継は中止になりましたが、次はこんなことをしたいね、こんなこともできそうと、活発な意見交換ができました。

活動報告

「里山林塾 いまとこれから～部活動でやりたいを実現！～」三輪里山林塾有志(村山、横井、中西、小西、柴田、上野)

報告の内容はp1~3をご覧ください。



TAMAZO～新生TAMAZO コロナ・ナラ枯れを 乗り越えて

当協会専務理事：中西 由美子
多摩動物公園内の雑木林であるTAMAZOでの活動は2004年にスタートし、現在はライオンの森と、隣接する七生公園のビオトープ池と昆虫の森で活動しています。

2020年にコロナ禍が始まり、時を同じくしてナラ枯れが関東地方に広がったため、ボランティア活動の受入れが中止となりました。やっと2022年の8月頃から活動を再開できることになり、この機会に新しい森づくりをやっていこうということで、同年7月に事務局で実施した「里山プランニング講座」で学んだ内容を実践する場としてライオンの森を活用しようということになりました。

8月下旬に現地調査、10月下旬にゾーニングの話し合いを実施。12月にも具体的な計画を話し合う予定です。

七生公園のビオトープの池は5m×15mぐらいの人工池ですが、できてからかなり時間がたっているので一見自然の池に見えます。ところが、こういう池は時間がたつと、泥や植物の枯死したものが底にたまって、それが腐ってくるんですね。本来は定期的に泥を出してきれいにするという保守作業が必要なんですが、汚泥の処理にお金がかかることがネックとなって、一度も実施されていませんでした。

そこで、せめて水を全部抜いて泥を乾かすことだけでもやりましょうと提案して、やっと動物園から許可がありました。11月の下旬に水の供給を止めて自然に干上がるのを待つという作業をやることになっています。

昆虫の森は、平成12年七生公園開園当時の矢島稔(みのる)園長さんが昆虫の豊かな森にしようと作られたんですが、園長さんが代わってから整備されていない状態になっていました。そこでコロナ前から手を入れ始め、9月から活動を再開しています。町田、林塾のメンバーにも参加してもらって、入るのもたいへんだった状態から、アズマネザサを一気に刈ってようやく歩けるような状態に。ここにもナラ枯れの木が何本もあるので、順番に伐っていこうという計画をしています。地盤の低い所は湿地状態になっているので、湿地の好きな

昆虫のエリアにしていくなど、いろいろな環境の昆虫が観察できるような場所にしたいたいと思っています。

TAMAZOはもともとメンバーが少なくて、コロナ前から活動がたいへんでした。この機会に新しいメンバーに加わってもらって、それぞれの場所で活動を展開し、いすれは一般の方も参加できるような観察会や調査、イベントなんかもできるようになるといいなと思っています。



発想、発信、一人が大切 ～地方の取り組み～

岡山県新見市：渡辺 明美

新見市は岡山県の北西部で、私の生まれた場所はその最北西部、鳥取県との県境にあります。自然があたりまえの中で暮らしていたので、その大切さに気づいたのは東京からUターンして地元で働き始めてからでした。

仕事を通して市の環境ボランティアの活動を知り、参加するようになりました。美大出身でグラフィックの仕事をしていたので、何かと重宝されて、団体のキャラクターを制作したり、着ぐるみの中に入ってイベントに出演するように。地元の名産である黒毛和牛をモチーフにした「エコもくん」は子どもたちの人気者になったんですが、もっと説得力のある“中の人”になりたいと思って、環境の勉強を始めました。

岡山県地球温暖化防止活動推進委員に応募。環境活動指導員養成講座を受けて、岡山県環境学習センターを拠点に、出前講座の講師として小学校や中学校に行ったり、いろんな機会を与えていただきました。

グリーンセイバー検定を知ったのもその頃で、テキストを取り寄せて「はじめに」という文章を読んだとき、まさに私が知りたいことだと感激して、挑戦することにしました。新見の自然を守りたいという思いが強くなったのも、グリーンセイバー検定のテキストで人と自然のかかわりを学んだことがきっかけです。

それとともに、一人ではできることに限りがあると感じることも多くなりました。自分で団体を立ち上げることまではできていないんですが、いろんな団体を見つけては参加させていただいています。

現在は県の指導学習員の他に、新見の木づかいと木育の会、新見市市民環境会議、羅生門認定ガイドなど、いろんな団体に所属して、さまざまな分野の方々とつながりを持ちながら、その中で必要とされる人間になりたいと思って頑張っています。

新見市には国指定天然記念物として鯉が窪湿原と羅生門があり、それぞれ保全活動をされてるんですが、ここでも高齢

化が進んでいます。また地元の人に参加してもらえないという課題も同じです。そんな中でも、地元の小学校や中学校を巻き込んで活動を広げたり、いろいろと努力されている方がいるので、私もお役に立てたらと新しいイベントを企画したりしています。



都市緑化機構 第33回緑の環境プラン大賞 国土交通大臣賞を受賞

仙台・八木山テラス：菅原 成至
東北での活動の足掛かりとして参加している「八木山テラス」の活動が、都市緑化機構の「緑の環境プラン大賞 国土交通大臣賞」を受賞。800万円の助成金が支給されることになりました。助成金は地域の保全に役立つようななかたちで使いたいと考え、東日本大震災と2022年3月の地震で崩れた青葉城の石垣のうち、約800万年前の噴火でできた三滝玄武岩を市から購入してガーデンづくりに役立てよう計画中です。

その後、これらの報告をふまえて、ホタルを復活させる活動についての意見交換や、フィールド交流の提案などがおこなわれました。

今後も皆さんと活動や運営について話し合う場を定期的に設ける予定です。詳細は決まり次第HPでご案内しますので、ぜひご参加ください。



パートナー・ボイス・プロジェクト
<https://www.shu.or.jp/partnersvoice>

